

2018 年行事予定

- 5月11日(金) 第 28 回日本臨床検査専
門医会春季大会、第 1 回
~12日(土) 全国幹事会、第 8 回生涯
教育講演会、第 52 回日
本臨床検査専門医会総会
5月20日(日) 第 87 回教育セミナー
7月20日(金) 第 35 回臨床検査振興セ
ミナー
9月29日(土) 第 2 回常任幹事会
11月 11 日(日) 臨床検査の日
日本臨床衛生検査技師会
11月15日(木) 第 65 回日本臨床検査医
学会学術集会、第 2 回全
~18日(日) 国幹事会、第 53 回日本
臨床検査専門医会総会・
講演会
12月15日(土) 第 3 回常任幹事会

【目次】

- | | |
|-----|--|
| p.1 | 巻頭言：臨床検査医の未来への戦略(第 28 回日本臨床検査専門医会春季大会) |
| p.2 | 事務局からのお知らせ、第 51 回日本臨床検査専門医会総会報告、平成 30 年度予算、平成 29 年度総会講演会報告、第 64 回日本臨床検査医学会学術集会関連行事報告、「全国検査と健康展」報告 |
| p.3 | 平成 30 年度第 28 回春季大会のお知らせ、第 8 回生涯教育講演会のお知らせ、第 87 回教育セミナーのお知らせ、平成 30 31 年度役員のお知らせ、平成 30 31 年度各種委員会委員のお知らせ |
| p.4 | 平成 30 年度行事予定、平成 30 年度会費振込みのお願い、住所変更所属変更に伴う事務局への通知について、会員の声：臨床検査専門医試験を受験して |
| p.5 | 会員の声：循環器内科医から臨床検査専門医へ、臨床検査専門医としての責務 |
| p.6 | 会員の声：血液内科医から検査医へ、編集後記 |

巻 頭 言

信州大学医学部病態解析診断学

本田 孝行

臨床検査医の未来への戦略(第 28 回日本臨床検査専門医会春季大会)

第 28 回日本臨床検査専門医会春季大会を平成 30 年 5 月 11、12 日に松本市で開催します。メインテーマは「臨床検査医の未来への戦略」です。日本の臨床検査医が、各地域、日本、アジアそして世界の医療にどのように貢献できるかを考えてみたいと思います。臨床検査は、人工知能(artificial intelligence、AI)が有用な領域です。AI は第 3 次ブームで deep learning が注目され、多額の投資がなされています。現在の AI で何ができて何ができないのか、臨床検査にどのように応用できるかを考えてみます。アジアで AI の第 1 人者、マレーシア、マラヤ大学 Chan Chee Seng 准教授に特別講演を行っていただきます。また、ビッグデータがどのように解析され、エビデンスを生みだしているかも関心があります。ビッグデータの活用に関して、川崎医療福祉大学 片岡浩巳教授、グーグル・クラウド・ジャパン 合同会社 阿部伸一社長(日本代表)にご講演いただきます。さらに、IBM Japan の溝上敏文先生に、IBM Watson の医療応用についてランチョンセミナーでご講演をお願いしてあります。

「臨床検査のアジアへ向けての戦略」についても考えてみます。シスメックス 松井石根上席執行役員、JACLaS 渡邊達久常務理事、日本臨床検査自動化学会 康東天会長、日本臨床検査医学会 宮地勇人理事にご講演とご討論をいただきます。各国の国内総生産(GDP)を合計しその重心を求めると、長い間、地球の北西地域にありました。米国およびヨーロッパが大きな GDP を生み出していたからです。その GDP 重心が徐々に東南へ移動しています。アジア、南米、アフリカ諸国の GDP が増加しているからです。臨床検査にかかわる企業の多くは、すでにアジアに目を向けた戦略を展開しています。日本の臨床検査も、まずアジアに貢献するためにはどうすればよいかを考える時期にきていると思います。

その他、生涯教育講演として、「医療安全の概論」を九州大学、鮎澤純子准教授に、「医療現場におけるヒューマンエラーとその対策」を東京慈恵会医科大学の海渡健教授にお願いしました。すべてに出席いただくと、専門医共通講習 2 単位、臨床検査領域講習 4 単位(さらに 1 単位が確定すれば 5 単位になります)が得られます。

松本は、新宿もしくは東京から 2.5~3 時間、名古屋から 2 時間かかります。お越しいただくには少し遠いのですが、春の信州のさわやかな風にあたれば、きっと来てよかったと感じていただけたと思います。信州大学医学部附属病院臨床検査部一同、第 28 回日本臨床検査専門医会春季大会で皆様をお待ちしております。

ログインされましたか?

臨床検査専門医会ネットワーク

会員専用のQ&Aコーナーなどがあります。
IDやパスワードがわからない場合は、
事務局までお問い合わせください。
TEL: 03-3864-0804

E-mail: senmon-i@jaclp.org

HPアドレス (QRコードも対応)

<http://www.jaclap.org/qa/login>



【事務局からのお知らせ】

《会員動向》

2018年3月5日現在 会員数 779名、専門医 630名

《新入会員》(敬称略)

矢野 彰三：島根大学医学部 臨床検査医学講座
 山本さやか：自治医科大学附属病院 臨床検査医学
 涌井 昌俊：慶應義塾大学医学部 臨床検査医学
 村田 光繁：慶應義塾大学医学部 臨床検査医学
 三原圭一郎：広島大学病院 造血管診療科 血液内科
 山崎 悦子：横浜市立大学附属病院 臨床検査部
 辻岡 貴之：川崎医科大学附属病院 検査診断学
 藤井 敬子：岡山大学病院 検査部
 嵯峨 知生：秋田大学医学部附属病院 中央検査部
 一色 美和：順天堂大学大学院医学研究科 臨床検査医学

《所属・その他変更》(敬称略)

金子 誠：旧 東京大学医学部附属病院 検査部
 新 山梨大学医学部附属病院 輸血細胞治療部
 茂久田 翔：旧 広島大学大学院 医歯薬保健学研究所
 新 スクリプス研究所(米国)
 井上 裕二：旧 山口大学医学部附属病院 医療情報部
 新 JCHO 徳山中央病院 病院長
 湊 宏：旧 金沢医科大学 臨床病理学
 新 石川県立中央病院 病理診断科

《退会会員》(敬称略)

佐野まどか：愛媛大学医学部附属病院 検査部
 佐伯 春美：順天堂大学医学部 病理・腫瘍学
 黒田 仁：東北大学病院 総合地域医療教育支援部
 横山 繁生：医療法人 野口記念会野口病院
 長野 拓三：
 横尾 英明：群馬大学大学院医学系研究科 病態病理学
 笠木 伸平：神戸大学医学部附属病院 検査部

《訃報》

上平 憲 先生 2017年12月29日ご逝去
 ご冥福をお祈り申し上げます。

【第51回日本臨床検査専門医会総会報告】

第51回日本臨床検査専門医会総会は2017年11月19日(木)に国立京都国際会館にて開催されました。

＜審議事項＞

第一号議案：平成30年度予算について(別掲)
 第二号議案：平成30年度名誉会員・有功会員の推薦について
 第一号～第二号議案は承認されました。

なお、名誉会員・有功会員として承認されたのは以下の先生方です。

名誉会員

石 和久 先生 伊藤 喜久 先生 犀川 哲典 先生
 三家登喜夫 先生 松野 一彦 先生 保嶋 実 先生

有功会員

小田桐恵美 先生 岸川 正大 先生 弘田 俊行 先生
 藤原 睦憲 先生 山田 恭暉 先生

＜報告事項＞

1. 平成29年度会長・監事選挙報告(既報)
2. 平成29年度中間会計報告
3. 各委員会等報告等

項目		平成29年度予算	平成30年度予算案
入金	会員会費	6,590,000	6,535,000
	賛助会員会費・寄付金	3,700,000	3,700,000
	小計	10,290,000	10,235,000
収入 その他	広告収入	400,000	400,000
	教育セミナー参加費	400,000	400,000
	生涯教育講演会参加費	150,000	150,000
	振興セミナー参加費	100,000	100,000
	利息	5,000	3,000
	小計	1,055,000	1,053,000
	入金合計	11,345,000	11,288,000
支出 業務経費	事務所維持費	1,700,000	1,700,000
	人件費	1,500,000	1,650,000
	設備費	150,000	50,000
	電話・FAX使用料	60,000	60,000
	通信費(事務局)	170,000	170,000
	事務局雑費	150,000	150,000
	小計	3,730,000	3,780,000
	印刷代	2,000,000	2,000,000
	要覧印刷代	0	500,000
	通信費	800,000	800,000
支出 事業経費	春季大会補助金	500,000	500,000
	臨床検査振興セミナー費	900,000	850,000
	教育セミナー費	700,000	650,000
	会議費	1,000,000	1,000,000
	交通費	100,000	100,000
	宿泊費	30,000	30,000
	原稿料	100,000	50,000
	専門医ネットワーク維持費	180,000	100,000
	HP維持費	170,000	170,000
	広報活動費(委員会HP)	100,000	50,000
	JCLS会費	50,000	50,000
	WASPALM会費	60,000	55,000
	臨床検査振興協議会	300,000	300,000
	内保連	200,000	200,000
	予備費	425,000	103,000
小計	7,615,000	7,508,000	
	出金合計	11,345,000	11,288,000
	収支決算	0	0

【平成29年度総会講演会報告】

第51回日本臨床検査専門医会総会に引き続き国立京都国際会館にて総会講演会が開催されました。本年は山田俊幸先生(自治医科大学臨床検査医学)に「新専門医制度における臨床検査専門医」についてご講演いただきました。

【第64回日本臨床検査医学会学術集会関連行事報告】

第64回日本臨床検査医学会学術集会における本会関連行事として以下の共催シンポジウムおよび共催ワークショップが開催されました。

＜共催シンポジウム＞

2017年11月17日(金)14:30～16:30

「10年後に臨床検査室は今のままでいられるのか
 -臨床検査の多様化とコスト削減の圧力-」

＜共催ワークショップ＞

2017年11月18日(土)10:00～14:10

「新専門医時代～臨床検査専門医が考えていくべきこと～」

共催ワークショップは日本臨床検査医学会ワークライフバランス委員会、教育委員会と本会が共催しました。多数の参加者を得て活発なディスカッションが行われました。

【「全国検査と健康展」報告】

2017年11月11日(金)の「臨床検査の日」に合わせて「全国検査と健康展」(日本臨床衛生検査技士師会・臨床検査振興協議会との共催)が各都道府県で開催されました。2017年度は10月1日～12月10日まで、全国21会場、延べ44名の臨床検査医にボランティアとして「検査説明・健康相談」を担当いただきました。ご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。

【平成30年度第28回春季大会のお知らせ】

大会長：本田 孝行教授(信州大学)
メインテーマ：「臨床検査医の未来への戦略」
会場：信州大学医学部附属病院外来棟4階、大会議室
会期：2018年5月11日(金)、12日(土)
参加費：3,000円

総会：平成30年5月12日(土) 11:10~12:00
春季大会 第1日：平成30年5月11日(金) 14:30~17:40
第2日：平成30年5月12日(土) 9:00~15:30

【第1日目】5月11日(金)

12:30 受付開始
13:00~14:20 全国幹事会
14:30~16:30 生涯教育講演会 講演1「医療安全の概論」
講演2「医療現場における
ヒューマンエラーとその対策」
16:40~17:40 特別講演
「Artificial intelligence(AI)で今何ができて今後何ができるか」
18:00~20:00 懇親会(会費：4,000円)
(外来診療棟5階レストランソレイユ)

【第2日目】5月12日(土)

8:30 受付開始
9:00~11:00 パネルディスカッション
11:10~12:00 総会
12:10~13:10 ランチョンセミナー「IBM Watsonの医療
応用はここまで来た(仮)」
(Watson Health Solutions, Manager IBM Japan,
Industry Solutions & Business Development)
13:20~15:20 教育講演「医療ビッグデータの現状と未来」
講演1「ビッグデータと検査専門医の
必要性(仮)」
講演2「ビッグデータとAI」(google LLC)
15:20 次期大会長挨拶
15:25 閉会挨拶

特別講演は、日本専門医機構認定 基本領域 臨床検査専門
医更新のための「臨床検査領域講習」1単位に、パネルディ
スカッションは同2単位に認定されています。参加証明書の
配付、回収方法は、入場および証明書配付は開始15分後ま
で、退場および証明書回収は終了15分前から可能です。

*専門医単位を必要としない方は、関係ありません。

【第8回生涯教育講演会のお知らせ】

すべての会員を対象としたリスクマネジメントと検査室管
理に関する講演会です。

本企画は、日本専門医機構認定 基本領域 臨床検査専門医更
新のための「共通講習(医療安全)」2単位に認定されています。

参加証明書の配付、回収方法は、入場および証明書配付は
開始15分後まで、退場および証明書回収は終了15分前から
可能です。

*専門医単位を必要としない方は、関係ありません。

開催日時：平成30年5月11日(金) 14:30~16:30

(第28回日本臨床検査専門医会春季大会の一部として開催
されます)

開催場所：信州大学医学部附属病院 外来診療棟4階

参加費：2,000円

司会 米川 修 先生

(社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷浜松病院臨床検査科)

橋口 照人 先生

(鹿児島大学大学院歯学総合研究科循環器・呼吸器学講座
血管代謝病態解析学講座教授)

講演1 医療安全の概論

鮎澤 純子 先生

(九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座准教授)

講演2 医療現場におけるヒューマンエラーとその対策

海渡 健 先生

(東京慈恵医科大学附属病院中央検査部診療部長
/医療安全管理部副部長)

【第87回教育セミナーのお知らせ】

第87回教育セミナーが5月20日(日)に帝京大学・霞ヶ関
キャンパスで開催されます。詳細は検査専門医会ホームペ
ージに掲載しました。

【平成30・31年度役員のお知らせ】

平成30・31年度役員として以下の先生が就任されました。

(敬称略)

会長：登 勉

副会長：佐藤 尚武、厩谷 直人

庶務・会計幹事：東田 修二

常任幹事：五十嵐 岳、東條 尚子、古川 泰司、
宮崎 彩子、盛田 俊介、米川 修

監事：佐守 友博、土屋 達行

全国幹事：藤井 聡、植木 重治、浅井さとみ、
久川 聡、増田亜希子、松下 一之、

伊藤 弘康、木村 秀樹、中村 文彦、
日高 洋、長井 篤、横崎 典哉、

大澤 春彦、松村 敬久、橋口 照人、
松井 啓隆

日本臨床検査医学会連絡委員：東田 修二、登 勉

JCCLS委員：高木 康

WASPALM委員：厩谷 直人、登 勉

内保連委員：古川 泰司、佐藤 尚武

臨床検査専門医・管理医審議会委員：

佐藤 尚武、東田 修二(学会)

臨床検査振興協議会理事：

登 勉、高木 康(平成30年3月まで)

厩谷 直人(平成30年4月より)

臨床検査振興協議会広報委員会：

五十嵐 岳、木村 聡

【平成30・31年度各種委員会委員のお知らせ】

平成30・31年度各種委員会委員が決定いたしましたのでお
知らせします。(敬称略)

【情報・出版委員会】：盛田 俊介委員長

五十嵐 岳、出居真由美、信岡 祐彦、福地 邦彦、
吉田 博

【教育研修委員会】：米川 修委員長

浅井さとみ、萱場 広之、小林 礼、東田 修二、
宮崎 彩子、山崎 正晴

【資格審査・会則改定委員会】：東條 尚子委員長

金子 誠、狩野 有作、康 東天、菊池 春人、
谷口 信行、田部 陽子、土屋 達行(アドバイザー)

【広報委員会】：五十嵐 岳委員長

上叢 義典, 尾崎 敬, 高木 潤子, 田部 陽子,
千葉 泰彦, 西川 真子, 増田亜希子, 山本 絢子,
木村 聡(アドバイザー)

【渉外委員会】：メ谷 直人委員長

浅井さとみ, 五十嵐 岳, 東條 尚子, 日高 洋,
横崎 典哉, 吉田 博

【保険点数委員会】：古川 泰司委員長

鷹野 壽代, 谷口 信之, 松下 一之, 三井田 孝,
山口 勇人, 横山 直之, 佐藤 尚武(アドバイザー)

【ネットワーク運営委員会】：宮崎 彩子委員長

河野 誠司, 鯉淵 晴美, 佐守 友博, 増田亜希子,
山口 宏茂, 土屋 達行(学会より)

【平成 30 年度行事予定】

平成 30 年度 日本臨床検査専門医会の行事予定をお知らせいたします。

開催日時、場所の変更が生じる場合があります。変更があり次第 JACLaP WIRE、JACLaP NEWS でお知らせします。その都度ご確認ください。

平成 30 年

5 月 11 日(金)

～12 日(土) 第 28 回日本臨床検査専門医会春季大会

11 日 13:00～14:20 第 1 回全国幹事会

11 日 14:30～16:30 第 8 回生涯教育講演会

12 日 11:10～12:00 第 52 回日本臨床検査専門医会総会

5 月 20 日(日) 第 87 回教育セミナー

(帝京大学・霞ヶ関キャンパス)

7 月 20 日(金) 第 35 回臨床検査振興セミナー

(東京ガーデンパレス)

9 月 29 日(土) 第 2 回常任幹事会

(日本臨床検査専門医会事務局)

11 月 11 日(日) 臨床検査の日

日本臨床衛生検査技師会：全国検査と健康展(未定)

11 月 15 日(木)

～18 日(日) 第 65 回日本臨床検査医学会学術集会

(京王プラザホテル)

第 2 回全国幹事会

第 53 回日本臨床検査専門医会総会・講演会

12 月 15 日(土) 第 3 回常任幹事会

(日本臨床検査医学会事務所)

【平成 30 年度会費振込みのお願い】

平成 30 年度の会費振込用紙をお送りしますのでお振込をお願い致します。未納分のある会員の方々は合計額をお振込ください(納入状況は振込用紙に記載致します)。

名誉会員は年会費は免除となっております。

平成 30 年度年会費：1 万円

平成 30 年度年会費(平成 30 年 1 月 1 日現在、
70 歳以上の方)：5 千円

郵便振込み口座：00100-3-20509

日本臨床検査専門医会事務局

ご自身の振り込み状況が不明な先生は、事務局まで E-mail または FAX でお問い合わせください。過去 2 年間会費を滞納している先生には、Lab CP、JACLaP NEWS、要覧の発送を停止いたします。悪しからずご了承ください。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更ともなって定期刊行物、JACLaP WIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。勤務先、住所および E-mail address 等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせ下さい。変更事項はホームページから【会員情報変更届】をダウンロードしてそれに記載し、FAX あるいは E-mail でお送りください。

また、日本臨床検査専門医会ネットワークシステムでは会員情報を各自で編集可能ですが、変更した旨を事務局までメールでご連絡下さい。

<連絡先>日本臨床検査専門医会 事務局

(水・土日祝祭日は休業日)

TEL 03-3864-0804 Fax 03-5823-4110

E-mail: senmon-i@jacpl.org

【会員の声】

臨床検査専門医試験を受験して

平成 28 年度の試験にて臨床検査専門医に認定していただきました山本絢子と申します。【会員の声】を拝見したところ、多くの先生方がサブスペシャリティを取得してから検査専門医を取得されているようですが、私は初期研修修了後に臨床検査の道に入りました。

検査専門医の取得を目指した契機は初期研修中に検査について多くの指導を受けたことにあります。検体採取について細かく指導を受けましたが、最も大きな動機は「何故その検査を出そうとしたのか」と問われたことにありました。多くの指導医に「何故この検査を出していないんだ」と叱責され、どの指導医にも叱責されることがないように、過剰に検査をオーダーするようになった頃に投げかけられた問でした。救急外来では診断を急ぎ、急変に対応できるように多くの検査がオーダーされます。しかし患者の間診・身体所見から検査値を想像することで必要最低限の検査で治療できるケースが多いこと、また過剰な検査結果はノイズを含み却って判断が困難になることを経験しました。DPC 算定では検査を出すほど病院の利益が減り、また保険点数の関係からオーダーできない検査もあります。検査に詳しい医師になるために、弘前大学医学部附属病院検査部に所属させていただくこととなりました。

専門医取得に向けて専門医セミナーを受講しました。勉強するポイントやわからなかったことを教えていただき、講師の先生方にはとても感謝しております。セミナーはほかの先生方と知り合うチャンスでもあり、ほかの先生方がどのような活動をされているのか、どのような研修を受け、どのように勉強されているのか知ることができました。受験の年には、ホームページでは詳細な記載がない推薦書に関して、セミナーで一度しかお会いしたことのない先生に連絡して、願書とともに郵送されてくることを知りました。

願書請求後、願書と同封されてきた卒後研修カリキュラムが 2014 年版で、ホームページでダウンロードできる 2009 年版とはわずかに変更点があり試験までの残された期間を絶望的に過ごしておりました。

受験資格には活動実績として検査医のコメントのあるレポートを求められております。卒後数年しか経験していない医師が、稀有な症例や重症例を経験する専門家に助言できるわけがありません。循環器内科の先生にもご相談し、エコーレポートが作成できました。循環器内科の先生方が研究などで検索しやすいようにいくつかのワードは略語で記載する必要がある一方で、検査専門医の受験資格として提出するレポー

トには略語などの記載は望ましくないとされており、不安を抱えたまま略語記載のままレポートとして提出いたしました。精度管理報告書は当初は病院名を記載しておらず、また修正箇所をメモで指摘するのみで最終版しか保存していませんでした。レポートの提出を検討する頃になって病院名を記載した精度管理報告書の作成を主任技師の方々に依頼し、指摘事項や修正前精度管理報告書、修正後精度管理報告書を保存いたしました。感染制御部や病棟に報告する耐性菌報告書に感染制御として注意する点、保健所への報告書作成依頼などのコメントを記載しレポートとしました。

多くの方からご支援を受け、専門医を取得することができました。ここで深謝申し上げます。現在は専門性を高めるべく研鑽を積んでおりますが、未熟者を痛感する日々です。今後ともご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

(弘前大学医学部附属病院検査部 山本 絢子)

循環器内科医から臨床検査専門医へ

2017年度から臨床検査専門医の仲間入りをさせて頂きました群馬大学医学部附属病院検査部の黒沢幸嗣と申します。私は1997年に東京大学農学部を卒業後、群馬大学医学部に一般入試で入学し、2003年医師になりました。農学部時代には微生物を使った研究をしていました。群馬大学卒業後は群馬大学第二内科に入局し、倉林正彦教授のご指導のもと、循環器内科として働き始めました。大学での内科ローテートと市中病院での勤務を経て、3年目に大学に戻りました。そのとき上司に指導を受けた心臓超音波検査に魅せられ、循環器内科の中でも心臓超音波を専門としていくことに決めました。その後、東京都府中市にある榊原記念病院に国内留学をして、臨床の心臓超音波を1年半集中して勉強する機会を頂きました。その後、大学に復帰し、心臓超音波を中心とした循環器内科の業務に従事しました。そこで生理検査室に出入りするようになり、生理機能検査を担当する臨床検査技師の方々と一緒に仕事をすることになりました。ルーチン検査での経胸壁心エコー図検査の実施・最終読影、経食道心エコー図検査、運動・薬物負荷心エコー図検査などを中心に仕事をしてきました。その後、検査部から心臓超音波検査に関して正式な業務委託依頼を受け、検査部とのつながりができました。そのご縁もあり、その後循環器内科から検査部に籍を移し、群馬大学医学部附属病院検査部部長の村上正巳教授のご指導を受けながら、検査部にて仕事をさせて頂くようになりました。

その後は検査部医師として仕事をすることになり、臨床検査に関する日常業務をこなしながら、臨床検査医学の学生実習・系統講義なども行う機会を得て、臨床検査医学分野への興味が増して行きました。徐々にこの分野で本格的に仕事をしたいと考えるようになりました。そこでこの分野を専門とすべく、臨床検査専門医を取得することとしました。試験を受けるためのレポート作成やMCQ・筆記・実技試験の準備をはじめると、今までに取得した専門医(総合内科、循環器、超音波)よりかなり大変でした。しかし村上教授をはじめとする検査部の先生方や臨床検査技師の皆様に指導を受けることができ、なんとか無事に専門試験に合格することができました。

臨床検査専門医を取得はできたものの、臨床検査医としては駆け出したばかりの未熟者です。自分の専門としている心臓超音波を柱としながら、臨床検査全般によりいっそうの研鑽を積んでいきたいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

(群馬大学医学部附属病院検査部 黒沢 幸嗣)

臨床検査専門医としての責務

熊本大学医学部附属病院中央検査部の部長を拝命して、まもなく3年がたとうとしている。この度ようやくこうして臨床検査専門医資格を取得することができ、まずは安堵するとともに、私自身がこれからこの資格を生かしてどのような活動ができるのか、日々思い悩んでいるのもまた偽らざる事実である。

臨床検査専門医が不足しているといわれ久しいようである。確かに他の基本専門領域に比べ、一桁もしくは二桁少ない専門医が登録されているのみで、私が所属する熊本県に至っては6名を数えるに過ぎない。なぜ臨床検査専門医は少ないのか。おそらく、臨床検査管理加算や、骨髄像診断加算・免疫電気泳動法診断加算などの判断料を加算できる一部の例外を除き、臨床検査専門医の在籍が病院経営上のメリットとなることが少ないという運営上の都合は無視できないだろうと推察する。また、多くの病院施設において検査室が外部精度管理事業に参加するなか、医師が直接的・実質的に精度管理に携わらなくとも検査精度を保つ仕組みが一定存在することなどが、臨床検査専門医を院内に措置せずとも、(少なくとも単純に検査を実施し、結果を提供するという点においては)病院運営を可能にしているといえるのではないか。こうしたことから、特に地方都市においては臨床検査専門医が求められず、当然ながら同専門医資格の取得を目指す学生や研修医は現れない。あるいは仮に現れてくれたとしても、キャリアパスを示して差し上げることが難しい以上、その責任をとることができないから、折角ポリクリやクリクラで臨床検査医学に興味を抱いてももらったとしても、彼らを安易にこちら側へリクルートするわけにはいかないのが歯痒いところである。

このようななか、私自身がこの地の臨床検査を発展させ、臨床検査専門医の重要性を理解してもらうために、何をすればよいのだろうか。諸先輩方に、是非その教を請い願いたい。

いま自身で考えていることのひとつは、来るゲノム医療への積極的な関与である。まずはがんゲノム領域を皮切りに、次世代シーケンサーによる遺伝子パネル解析が医療として実施されようとしている。これを検査として成立させるためには、検査部門は言うに及ばず、遺伝カウンセリング実施者や病理部門、各専門診療科などとの連携が必須である。したがって、当然私たち検査部門だけで完結できるものではないが、細々ながら多少先回りして始めてきたパネル解析の経験を、自施設ならびに業界のために役立てていきたいと思っている。もうひとつは、医療ネットワーク事業における臨床検査専門医の役割の付与を構想している。ここ熊本県では、くまもとメディカルネットワークという名称で地域医療システムが運用されているが、ここに流されてくる臨床検査データを解釈し、地域の開業医や医療機関で診療に従事されている先生方にフィードバックするサービスを展開できないか模索中である。いずれも容易に成し遂げられるなどは露ほども思っていないが、有難くもこうして頂戴した資格を真の意味で役立てられる何かを始めること、そしてそれを基盤に検査医のステータスをよりいっそう向上させることが、私の責務だと感じている。

熊本に移ってきてからこれまで、阿蘇や天草をはじめとする雄大な自然を愛でながら、また折々に多くの方々からの温かいお力添えを頂きながら、日々奮闘しています。どのようなことでも結構ですので、ご助言をいただきたくお願いいたします。

(熊本大学大学院生命科学研究部臨床病態解析学分野 松井 啓隆)

血液内科医から検査医へ

はじめまして。静岡赤十字病院検査部の朝比奈彩と申します。私は 2005 年度に浜松医科大学を卒業し、血液内科医としてフルタイムで働いておりました。出産後、卒後 10 年目を目前にして、このままでよいのだろうかと思っておりました。そんな折、現職の大畑雅彦技師長に、「検査医として来ないか」とお誘いをいただきました。もともと初期・後期研修医として 3 年間お世話になった病院の検査部であり、働きやすい環境でした。血液内科は、血液・凝固検査、輸血、微生物など、臨床検査なしでは特に語れない診療科であり、大変身近な存在です。ですので、困ることは少ないだろうと思っていたのですが、異動した当初は何をしたらよいか分からず、途方に暮れていました。そこで、過去の職場である浜松医科大学臨床検査医学講座 前川真人先生や聖隷浜松病院臨床検査科 米川修先生、そして現場の臨床検査技師の方々にご指導いただき、少しずつ「臨床検査のいろは」を身に着け、本来の検査医らしい日常業務をこなせるようになりました。専門医試験勉強や試験前に開催される教育セミナーは、試験のみならず、日常業務に直結し、すぐに活かすことができました。こうして、知識を得て、成功や失敗の経験を積み、現在は業務量も増え、忙しい日々を過ごしています。臨床検査を学ぶと、私もそうだったように、いかに多くの臨床医が臨床検査について無知であるかがわかります。臨床医や、臨床検査技師、またその他のコメディカルの方々に「検査医がいてよかった」と言ってもらえるのが、やりがいです。正直なところ、異動当初は、こどもがある程度大きくなったら、また血液内科医に復帰しようと決めていましたが、今は検査医として人生を全うするつもりです。

近況としては、ISO 15189 受審を目標に、準備に追われています。ISO 15189 の要求事項は、難解な日本語ではありますが、よき教科書です。そして、プライベートでは、3 児(執筆当時年長・年少・2 歳)の母としてドタバタの毎日を過ごしています。2017 年 11 月開催臨床検査医学会学術集会のワークショップの「子育て・ワークライフバランス」のセッションでは、現在・過去に育児・介護と仕事に奮闘している女性医師の方々がたくさんいらっしゃったのが、大変励みになりました。

これからも、時代に合った検査医の存在意義を見据えながら、しっかりと研鑽を積んでいきたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

(静岡赤十字病院検査部 朝比奈彩)

【編集後記】

私事ではありますが、本年 2 月よりロードバイクに乗り始めました。ロードバイク特有の滑空感を味わいたかった…という格好良いのですが、自身の増えすぎた体重をどうにかしたいという気持ちも正直あります。(笑) 減量のため、そ

してロードバイクを乗りこなすため、昨年 8 月よりエアロバイクによるトレーニングを開始、現在“少しずつながら”も目標を達成しつつあります。

話しは変わりますが、JACLaP NEWS 編集においてのこと。御存知の方もいらっしゃると思いますが、事務局便りの冒頭には「現在の臨床検査専門医数」が毎回掲載されております。この数字が気になったので推移を調べてみたところ、2016 年 599 人、2017 年 609 人、2018 年 630 人と緩やかながらも上昇傾向。ですが、2018 年度新専門医採用者数をみると病理 101 名、リハビリテーション科 66 名に比べ、臨床検査は 4 名しかおりません。今後も専門医数を増加させていくためには、多くの医師に臨床検査専門医の存在、そしてその面白さを知っていただくことが必要です。そこで、専門医会広報委員会では、臨床検査医学会、専門医会の各委員会の先生と協力しながら、「レジデントノート」連載、学術集会における「ワークショップ」開催、「医学生・若手医師のためのハンズオンセミナー」開催による若手医師の勧誘、「臨床検査専門医 取得への推奨ルート」というポスター作成による受験方法周知等の活動を行っております。また、次年度は専門医会教育委員会のご協力で「教育セミナー」の定員増加も御高配いただきました。

上記のような広報活動が数字にいきなり反映されることはないと思われませんが、ロードバイクと同様に“少しずつながら”も継続していく事で結果がでてくると考えております。成果が出るまで時間が必要と思っておりますが、専門医数増加に貢献したく思っておりますので、皆様に御助力いただければ幸甚です。宜しくお願ひ申し上げます。

*現在、「会員の声」が非常に少なく困っております。新専門医の先生方、ご多忙中申し訳ございませんが、ご執筆いただけますと大変助かります！

(編集主幹 聖マリアンナ医科大学 臨床検査医学講座 五十嵐 岳)

会員の皆様へ

広く「会員の声」を募集しております！
テーマは自由、文字数も自由です。
是非ともご意見をお寄せください。

【テーマの例】

- ・自己紹介や検査室のご紹介
- ・様々な技術・ご経験のご紹介

投稿方法：日本臨床検査専門医会事務局
まで、メールにてお送りください。
E-mail: senmon-i@jacplp.org

日本臨床検査専門医会

会 長：登 勉、副会長：佐藤尚武、〆谷直人(渉外委員会委員長、全国検査と健康展担当)

庶務・会計幹事：東田修二

常任幹事：五十嵐岳(広報委員会委員長)、東條尚子(資格審査・会則改定委員会委員長)、古川泰司(保険点数委員会委員長)、宮崎彩子(ネットワーク運営委員会委員長)、盛田俊介(情報・出版委員会委員長)、米川 修(教育研修委員会委員長)

監 事：佐守友博、土屋達行

全国幹事：浅井さとみ、伊藤弘康、植木重治、大澤春彦、木村秀樹、久川 聡、長井 篤、中村文彦、橋口照人、日高 洋、増田亜希子、松井啓隆、松下一之、松村敬久、藤井 聡、横崎典哉

情報・出版委員会：

委員長：盛田俊介

委 員：五十嵐岳、出居真由美、信岡祐彦、福地邦彦、吉田 博

日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番地 第3東ビル908号

TEL: 03-3864-0804 FAX: 03-5823-4110 E-mail: senmon-i@jacplp.org